

小児がん中央機関の行うべき業務 相談・支援事業について

国立成育医療研究センター 医療連携・患者支援センター
ソーシャルワーカー 鈴木 彩

2015年3月31日(火)14:00-17:00

小児がん中央機関 アドバイザリーボード

小児がん中央機関 相談・支援事業

- 小児がんに関する相談支援の向上に関する体制整備を行う
- 小児がん患者・経験者の発達段階に応じた長期的な支援の在り方について検討する

国立成育医療研究センターの役割

- 小児がんにおいて特徴的な相談支援の内容を同定し小児の相談支援に関わる相談員の小児用カリキュラムを作成し、相談員に対する研修を実施する。
- 小児がん患者・経験者の発達段階に応じた長期的な支援についてのカリキュラムを作成し、相談員に対する研修を実施する。
- 拠点病院における相談員が年に1回意見交換を行える場を設ける等によって、相談員への支援体制を整備する。
- 拠点病院と連携して、地域で小児がんのこどもを支えるため、医療・福祉・教育関係者を対象とした講演会等を開催する。

相談員研修①

2014年8月 小児がん相談員研修プログラム委員会を結成

<委員>

- 竹之内直子(神奈川県立こども医療センター)
- 平野朋美(埼玉県立小児医療センター)
- 森田直子(京都府立医科大学附属病院)
- 佐藤恵美(大阪市立総合医療センター)
- 小俣智子(武蔵野大学人間科学部社会福祉学科／小児がん経験者)
- 関由起子(埼玉大学教育学部学校保健学講座)

<事務局>

- 高山智子(国立がん研究センター がん対策情報センター)
- 松本公一(国立成育医療研究センター 小児がんセンター)
- 鈴木彩(国立成育医療研究センター 医療連携・患者支援センター)
- 佐藤杏(国立成育医療研究センター 医療連携・患者支援センター)

相談員研修②

2014年9月25日 第1回プログラム委員会を開催

＜検討内容＞

- がん相談員基礎研修(1)～(3)の受講について
- 小児がん専門研修のあり方(研修期間と回数・内容・実施時期など)
- 今年度の研修の実施について
- 小児がん拠点病院協議会の相談支援部会のあり方
 - 小児がん相談員は成人がん相談員基礎研修(1)を必須とする
 - 小児がん専門研修は2015年12月5日・6日に実施する
(場所は国立がん研究センター・特別会議室を利用)

相談員研修③

2015年1月20日 予備研修・事例検討会
(相談支援部会と同日開催)



- 予備研修は相談員への支援として、小児がん中央機関や拠点病院の役割に関する理解を深めることを目的とし、実施した。
 <研修内容> 「小児がん中央機関と小児がん拠点病院の役割について」
 国立成育医療研究センター 小児がんセンター長 松本 公一
- 事例検討会は小児がん相談員が事例を通じて意見交換を行うことにより、相談員の資質向上を目指すことを目的とし、事例提供者の困難事例に基づいたディスカッションを実施した。

相談員研修④

2015年2月2日 第2回小児がん相談員研修プログラム委員会

- 第1回小児がん拠点病院相談支援部会（2015年1月20日実施）からの意見
- 相談員研修プログラム案と講師の選定

相談員研修⑤

研修プログラム案

1日目	2日目
小児がん対策について	相談支援とは
小児がん相談支援センターの役割	小児がんにおける相談支援とは
相談支援センターの小児がん相談員の役割	小児がん患者家族を支える社会資源
小児がんについて	小児がん患者への支援
AYA世代のがんについて	親や家族への支援
血液腫瘍について	きょうだいへの支援
固形腫瘍について	教育支援
脳腫瘍について	自立支援
晩期合併症について	事例検討
小児がんの子どもの成長・発達	
小児緩和ケアについて	

相談支援部会

- 2015年1月20日に開催
- 15拠点病院と中央機関より27名が参加
- 4グループに分かれ、相談支援体制の在り方と相談員研修に望むことについて話し合い
- 今後は年間2回開催予定



今後の課題

- 各拠点病院での相談員の職種や人数、相談対応方法は様々であり、相談支援の質を担保するためには相談員研修が大変重要な役割を持つと考えられる。また基礎研修(小児がん相談員専門研修)以外に、継続研修を求める声が多く、今後は継続研修を計画する必要がある。これについては国立がん研究センターとも話し合い、今後の研修の在り方をプログラム作成委員会でも検討していく。
- 小児がん相談員専門研修について、今後小児がんを診療する病院の相談員にどのように広げていくかを検討していく。
- 医療・福祉・教育関係者向けの講演会についても検討する。